



No.11

学校図書館

2011年3月 司書だより

# 特集 美濃加茂の子は本が大好き!?

美濃加茂市家庭読書アンケート（平成22年6月実施）の結果より

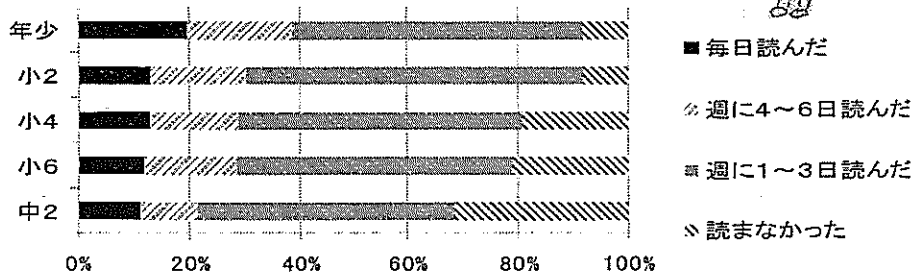
メディアに取り囲まれた現代の子どもたちにとって、読書は、「生きる力」を身につけるための大切な活動です。

美濃加茂市では、子どもが本を好きになるようにと、市立図書館が中心となって『子どもの読書活動推進計画』を立て、読書活動を支援してきました。昨年の6月には、家庭での読書のようすを知るためにアンケート調査がおこなわれました。市内の小2・4・6年生、中2年生の子どもとその保護者の約4割（無作為抽出）、年少の保護者全員に配布され、そのうちの約6割から7割の方から回答をいただきました。

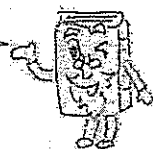
今回は、その結果からみえてきたことを学校司書から報告します。

## 子どもたちは家でどのくらい本を読んでいるの？

### ○ この1か月、家で本を読みましたか？



※年少については、保護者の読み聞かせの回答数をもとにしてあります。



学年が上がるにつれて、読まなかった子の割合が多くなり、中2になると3割の子が、全く読んでいない！しかし、毎日読んだという子が、小2から中2までほぼ変わらず1割いるなあ…

小さいころに読書が習慣になれば、その後もずっと読書に親しむ暮らしを続けていくようになるのにちがいない。これは、いい！

週に1日以上読んでいた子の、読んだ本の冊数の平均は、年少…15.9冊、小2…10.2冊、小4…9.3冊、小6…7.9冊、中2…4.2冊という結果だった。やはり、読んでいる子と全く読まなかった子のちがいは大きいなあ…。



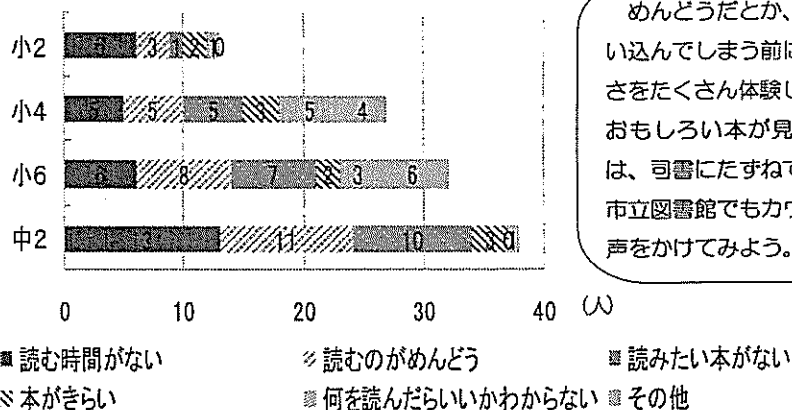
年少では、ほとんど毎日のように読み聞かせをされている子が4割近くもいてなかなか関心が高そうだ！

年少で1割弱の子が1か月に1度も家で本を読んでもらってないのか…幼稚園や保育園、小学校低学年では、1週間に1回は園や学校の図書室で本を借りているから、全く家に本がないはずはないのだけどなあ…。

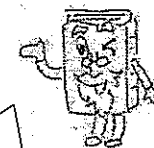


## なぜ家で読書しなかったの？

### ○ 読まなかった理由をお答えください。



めんどろだとか、きらいだとか思い込んでしまう前に、本のおもしろさをたくさん体験してほしいなあ。おもしろい本が見つからないときは、司書にたずねてみよう！！市立図書館でもカウンターで職員に声をかけてみよう。

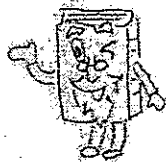
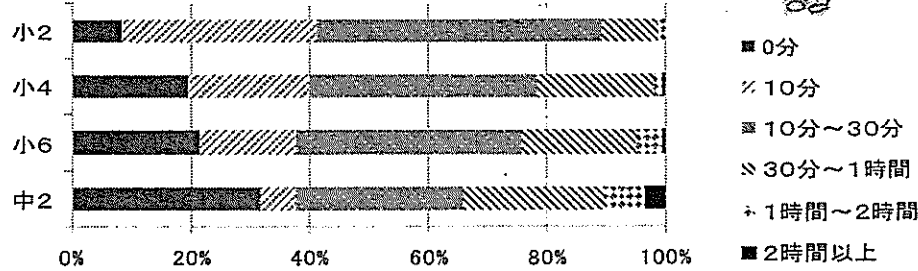


小2では読まなかった子の割合はもともと少なかったのだが、そのうちの半数近くの子が時間がないからと言っている。低学年なら少しの時間で読める本が多いのだけれどなあ…。それでは、家での時間のすごしかたは、どうなっているんだろう？



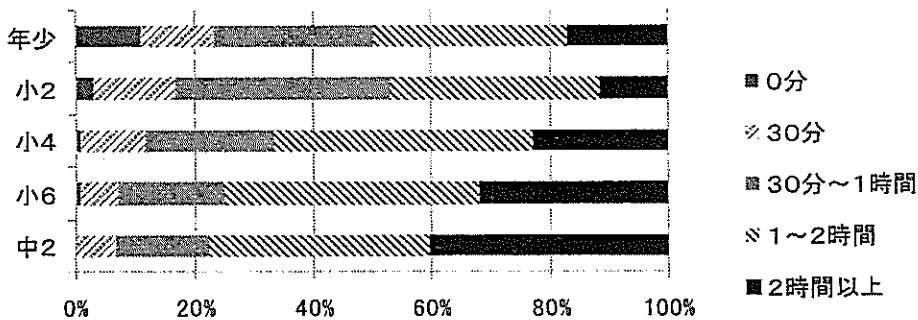
## 家での読書orTV・ゲームの時間はどのくらい？

### ○ 1日にどれくらいの時間本を読みましたか？



学年が上がるにつれてページ数の多い本を読むことが多くなるので、読む時間も長くなる。本のおもしろさがわかれば、続けて読んでいけるようになることがわかる。読めばおもしろくて、よい時間が過ごせるのは間違いないのだが、時間がないのはどうしてだろう…。では、テレビやゲームに使う時間はどのくらい。

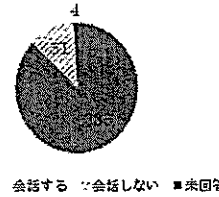
### ○ 1日にどれくらいの時間テレビを見たりゲームをしったりしますか？



小学生では、読書は30分以内の子がほとんどなのに、テレビ視聴などに使う時間は、2時間程度の子がかなり多い。読書の時間を設けようという意識がないと、時間はテレビなどのために費やされてしまう。テレビをつけておくとアッという間に時間が過ぎてしまうのだ。大人はそれでもよいかもしれないが、大切な成長の毎日を生きている子どもたちは、本当にそれでよいのだろうか…。同じ時間でも、これを読書のために使うことができたらどんなにいいだろう。



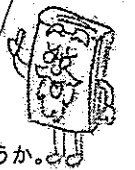
## ○ 本を話題に会話することがありますか？



本の話が家族の会話に自然に登場していることがわかる。コミュニケーションに役立っているのだから、読書への関心があるのだから、意識的に時間を使ってあげれば、きっと子どもたちが「家庭での読書」をあたりまえに楽しむことができるようになることはまちがいない！

## 子どもにとってどうして読書は大切なのですか？

アンケートの結果から、本を読む子どもも読まない子どもも、家庭での貴重な時間がテレビやゲームに費やされていることがわかりました。では、なぜ本を読むことが必要なのでしょう。児童文学翻訳家の脳明子さんが大切なことを言っておられます。



生きる力、それは日々ふりかかってくる問題を柔軟に解決する力、自分自身をコントロールする力、人間の視点からだけでなく、自然の側からも見ることでできる視野の広さ、たとえ逆境にあっても人生を楽しむ余裕を持ち、前向きでいられる力、まわりの人たちと温かい人間関係を作っていける力といったところでしょうか

子どもたちはいったいどうすればそんな力を身につけることができるのでしょうか。いまの子どもたちには、多様な人間に揉まれてこそ味わえる豊かな感情体験もなければ、驚異に満ちた自然を五感を全開にして楽しむ機会も不足しています。そのかわりに与えられているのが、テレビ、ゲーム、インターネットなどのメディアですが、これらは、それ自体に直接的な危険性があるだけでなく、ただでさえ乏しい実体験をますます減少させかねないという意味で、間接的にも危険です。そこに追い打ちをかけているのが、子どもを脅かす犯罪の増加で、今後ますます子どもたちは屋内に阻まれて、安全であるはずの場所でメディアの危険にさらされて、発達を深刻に脅かされることになりそうです。

そんな子どもたちにとって、一筋の希望と言えるのが、本を読むことです。本当に力のある物語に出会って、その世界にどっぷりと漬かり、豊かな人間性を持った登場人物たちと友だちになり、疑似体験とはいえさまざまな感情を味わい、想像のなかで五感を働かせることができれば、子どもは大きく成長し、生きる力を蓄えることができます。

「子どもの読書を考えなおそう」より

脳明子 ノートルダム清心女子大学教授、児童文学翻訳家  
著書に『読む力は生きる力』(岩波書店)ほか多数ある。

家庭に静かな時間を取り戻して親子のコミュニケーションをとり、本当に力のある物語にたくさん出会えるといいですね。

これからも学校司書として、子どもの生きる力を身につけるのに役立つ、本当に力のある物語を見つけ、子どもたちに紹介していきたいと思います。